

令和6年度豊橋市地球温暖化対策推進会議 会議録

日 時：令和6年11月22日（金） 午後3時30分～午後5時

場 所：豊橋市役所本庁舎講堂（東館13階）

委員数：19名／20名（うち代理による出席は2名）

○開会

○委員紹介

○議題

（1） 委員長・副委員長の選出について

豊橋市地球温暖化対策推進会議設置要綱に基づき、委員の互選により選出

（2） 豊橋市の温室効果ガス排出量の実績について

（3） 第2次豊橋市地球温暖化対策地域推進計画の関連施策の進捗状況について

（事務局から別紙資料に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明について何かご質問及びご意見はないですか。

委 員：市域のトップランナーである豊橋市役所の、CO2排出量の状況はいかがでしょう
か。

事務局：豊橋市役所におけるCO2排出量は、「豊橋市エコマネジメントシステム」で管理
しており、令和5年度における、CO2の削減率は2015年度比で18.4%です。

委 員：ごみの分別がしっかりできている印象を受けています。

委 員：コロナ禍を経て活動量の増加により、電気使用量が増えてきている印象を受けて
います。

委 員：営業車を多数所有しており、CO2の排出については責任を痛感しています。一方
で燃料はガソリンに比べエコなLPガスを使用しています。最近では、LPガスと電気を燃
料としたハイブリッド車両を導入するなど、環境に配慮した車両を取り入れています。

委員：地域の行事が7月から9月の暑い時期に行われることが多いが、温暖化が進むにつれて日程や時間の見直しが必要と感じています。

委員：CO2の排出量について、産業部門が非常に多くを占めているが、計画の目標である2030年に46%の削減は厳しいと思われます。官民で知恵を出し合ってやっていかないといけないと思います。特に市長は自ら先頭に立って施策を進めていただきたいです。

委員：市民団体の立場で参加しておりますが、やはり大事にしたいのは脱炭素やCO2への取組みと感じています。

委員：鉄道や路面電車は地球に優しい乗り物ですが、コロナの影響で利用者が減り、現在もコロナ禍前までは戻っていません。今後も地球に優しい乗り物としてPRしていきたいです。

委員：農業生産基盤の数字の伸びが悪いですが、農業者の高齢化が進み、農業を辞める方が増えており、耕作放棄地が増えています。次世代に引き継ぐことができたらいが、後継者問題もありなかなか難しい現状です。市と連携をとって対策を進めていますが、これからもしっかりやっていきたいと思っています。

委員：製造業としてCO2の排出量においては負の面が大きいです。日々細かい面で省エネや太陽光発電による自家消費などに努めています。

委員：街中の商店街はコロナ禍のピークから比べると、少しずつ人が出てきていますが、コロナ禍以前には届いていないレベルだと思います。街中を歩いてもらうことでエネルギーの消費を抑えられる一方で、地球温暖化の影響で、日中に快適に歩くことも厳しいので、街中の整備をお願いしたいです。快適に歩いてエコな街中をつくるのが課題であると思います。

委員：ブラジルからオレンジジュースを輸入しパッキングしていますが、地球温暖化の影響で現地でもオレンジが採れなくなっており厳しい状況となっています。会社としては設備などの省エネに心がけています。

委員：製造業ですので、モノを生産する際にたくさんのエネルギーを消費しているため、省エネ機器の導入やエネルギーのロスが減らせる機器を導入しています。また、太陽光パネルの設置を検討していますが、採算性が合わないため見送ろうとしています。市の方で補助金があればありがたいです。

オブザーバー：愛知県は「あいち地球温暖化防止戦略2030（改定版）」により、2030年度に温室効果ガス総排出量を2013年度比で46%減、2050年にカーボンニュートラルを目指しています。ゼロエミッション自動車の普及加速が県の重点施策の一つにありますが、豊橋市の取組みが進んでいることに驚きました。愛知県も事業者向けの再エネ補助金を実施していますが、大変好評で、募集後すぐに予算に達したことから事業者の意識の高さを感じています。

委員：非エネルギー起源CO2について、前年度から大幅に増えており、その8割が工業プロセスとあります。また、算定方法の参考資料の非エネルギー起源CO2の算定方法では、工業プロセス分野についてトピー工業に関する記載がありますが、この算定に係る値はトピー工業のみの値でしょうか。

事務局：トピー工業だけが該当しているため、聞き取り調査によるトピー工業の値を算定に用いています。

（事務局から豊橋市の事業者向けの補助金について案内）

委員長：ありがとうございました。地球温暖化対策は社会全体で取り組んでいかなければならない問題ですので、よろしくお願いします。続いて議題の（4）の第2次豊橋市地球温暖化対策地域推進計画の改訂について事務局から説明してください。

（4）第2次豊橋市地球温暖化対策地域推進計画の改訂について

（事務局および計画改訂業務の受託者から別紙資料に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明について何かご質問はないですか。

委員：計画改訂業務の受託者の選定は、公募型プロポーザルの結果ですか。また公募結果は市のホームページに公開されていますか。

事務局：選定は公募型プロポーザルで選定し、HPで公開しています。

委員：資料3の2ページに、「自分ごとにする」ということについて記載されているが、これが市民と一番親和性があると思います。私たち市民はどこに着目すればよいですか。

委員長：「自分ごと」を含め、基本的な方向性として記載されている①から④は全てやらないといけないと思います。委員により興味あることが異なると思いますので、今後、各委員が注視していただいて、ご意見をいただければと思います。

事務局：適応策はその性質上、防災、農業、健康など広範囲に渡っていますので、市単独で案を立てるのには限界があります。そのため、市民や有識者の方に自分ごととしてとらえていただけるようなご意見をいただきたいと考えています。

委員：パブリックコメントについて、市民の意見をもらうことはとても大切だと思います。個人的には、農業に関して興味があるため、CO₂の問題が農業の課題と連動していくと、市民もコメントしたくなるのではと思います。

委員長：農業はもちろん、そこだけにフォーカスせず、一番の問題はCO₂の削減であると思います。CO₂を出さない技術の確立や技術開発は遠い道のため、まずもって広くご意見をいただいたことが取組みに反映されるようになれば良いと思います。

委員：豊橋の特徴として、やはり農業や緑化が主要になっていると思います。緑化の部分とCO₂との関連についてもご指摘いただければ市民も参加しやすいのではと思います。

委員：資料3の3ページに記載してあります従来の算定方法について、これまで愛知県の情報等を参考に按分し算出していたものを、事業者の積上げによる算定に変更することですが、事業所の算出目標を積上げていく方法に変えるという理解でよろしいでしょうか。もしくは、実績の把握について積上げ法にしていくということでしょうか。

受託者：目標値ではなく、実績の把握におけるCO₂の算定について事業所の積上げによる算定にしていくということです。

委員長：他の自治体の算定方法も按分法を用いる算定が大半であり、豊橋市同様、これから改訂を考えている自治体は実績を参考にした積上げ法にしようとしていると思います。

委員：実態と合わない算定方法については、これまでも一番議論されてきたと記憶しています。今後実数として出していくときに、国や県との整合性やダブルスタンダードになっていくのかなど、その辺はどのようにお考えでしょうか。

受託者：愛知県はCO₂排出量の算定において、都道府県エネルギー消費統計という、ある意味実数を使用しています。一方、市町村が愛知県と同様に都道府県エネルギー消費統計

を使おうとすると按分になってしまいます。すなわち、愛知県は元々ある程度の実数としての数値を用い算定していますので、市町村もある程度の実数を使うようになるということでダブルスタンダードではないと考えています。むしろ今までが按分であったので、世帯数や製造品出荷額の比較でしかなかったと言えます。積上げ法を用いることで、本市の実態が分かるようになると思います。

委員長：積上げ法を用いた算定方法に変更するということは、より実情に沿った計算をすることになるため、これまでの取組みの良し悪しが見えるようになると思われます。

委員：電気使用量によるCO2排出量の算定には排出係数を用いるが、排出係数は電気事業者により異なります。どの排出係数を用いるのか教えていただきたいです。

受託者：特定事業者には、省エネ法や温対法に基づく報告制度があり、ここで報告された数字を使う想定でいます。

委員：最近ではスマートメーターの導入が進み、家庭における電気使用量も把握することができるので、可能な限り協力したいと思っています。

委員：ガスの使用量については、必要とされる情報が個別に把握できている部分もあれば、個別に把握できないものもあるため、確認が必要と思われます。

委員：基本的な方向性にある、「自分ごと」に着目したいと思っています。自分ごとイコール個人なので、どのように自分ごとにしていくといいのかを考えたときに、例えば、家庭菜園で育てた野菜を食べることでの運送面への配慮など、自分ごとに変えられるものがあれば行動していきたいと思います。

委員長：議事は以上になります。事務局へお返します。

（「その他」として、事務局から今後の推進会議の日程について連絡）

事務局：委員長ありがとうございました。委員の皆さま、本日はお忙しい中、貴重なご意見をありがとうございました。これで令和6年度豊橋市地球温暖化対策推進会議を終了します。